

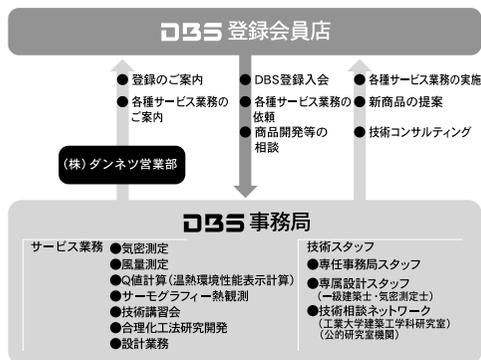
特集

ビルダーの未来を切り開く DBS の全て

(Dannetsu Build-technical Service)

ここ数年、住宅の品質確保の促進等に関する法律や住宅性能表示制度、建築基準法の改正など、住宅業界を取り巻く環境は急激に変化し、住宅市場も縮小しつつあるなど、ビルダーにとっては本格的な生き残り競争の時代を迎えたと言えるでしょう。そのような状況の中、(株)ダンネツでは住宅の性能測定やコンサルティングなどを行うことによってビルダーの販売促進を支援する「DBS (Dannetsu Build-technical Service)」というサポートシステムを10月からスタートさせました。今回は、ビルダーの強い味方となるこのシステムの特徴や利用法などについて紹介していきましょう。

★先進技術と豊富なノウハウを提供★



DBSのサポートシステム

「DBS」は、ダンネツがこれまで培ってきた断熱・気密施工のノウハウを活かし、住宅の高性能化や複雑化する各種法規制等への対応をバックアップすることで、ビルダーの販売促進・受注拡大をサポートする会員制のシステム。一般的なフランチャイズなどとは異なり、ダンネツと取り引きがあればどのビルダーでも入会可能で、会員に対し特定の断熱材や建材の使用を強制することもないなど、制約がほとんど存在しない点が大きな特徴と言えます。当初は札幌及びその周辺地域からスタートし、徐々に道内全域、そして関東までエリアを広げる予定です。

具体的なサービスとしては、①気密測定②換気風量測定③Q値計算(温熱環境性能表示計算)④

サーモグラフィ熱観測⑤断熱・気密仕様のコンサルティング⑥工法・技術の勉強・講習会⑦作業効率化の共同研究開発(工法別の作業コスト研究)⑧トータル業務(プランニング・各種性能表示・実施設計)―以上の8つを提供。なお、会員にはダンネツへの断熱関連工事発注額に応じてポイント還元が行われ、貯まったポイントは1点1円として各種サービスに利用可能です。

★賢く利用して受注拡大へ★

様々なサービスが提供されることにより、ビルダーもいろいろな利用法が考えられます。いくつか例を挙げて紹介しましょう。

ア.断熱改修の営業にサーモ熱観測活用

新築需要が減少し、これから現場が少なくなる本格的な冬を迎える中、増改築・リフォームへの参入は避けられませんが、例えば断熱材の沈下などが考えられる築10年以上の住宅



断熱施工の様子がわかるサーモグラフィ熱観測



住宅の隙間を測る気密測定

で、サーモグラフィー熱観測を行い、断熱欠損を起こしている部分をユーザーに指摘して断熱改修につなげることも一つの方法。施工前と施工後の画像を見比べてもらうことで、ユーザにも適切な工事を証明できるでしょう。特に今ならキャンペーンとしてサーモグラフィー熱観測を通常価格・会員価格とも設定価格の半額で実施しているので、一度試してみたいはいかがでしょうか。

イ. 気密・風量測定で信頼獲得

住宅の性能に対するユーザーの関心が高まる中、他社との性能差をどのように表すかはビルダーにとって頭の悩みどころでもあります。そこで利用したいのが、気密測定や換気風量測定、Q値計算。ユーザーに住宅の性能を測定・保証することで信頼感はいっそう強まりますし、他社との差別化にもうってつけ。Q値計算では年間の暖房灯油消費量などがわかるのも、家計を預かる奥様にとっては嬉しいものでしょう。

ウ. コンサルなどを利用し多様なニーズに対応

今やユーザーニーズは多様化し、ビルダーも今まで以上の技術力・提案力が求められるようになってきています。しかし、「DBS」の断熱・気密仕様のコンサルティングを受ければ、必要な性能水準に応じた断熱材の組み合わせやディテールを提案してもらえるほか、共同研究開発ではコス

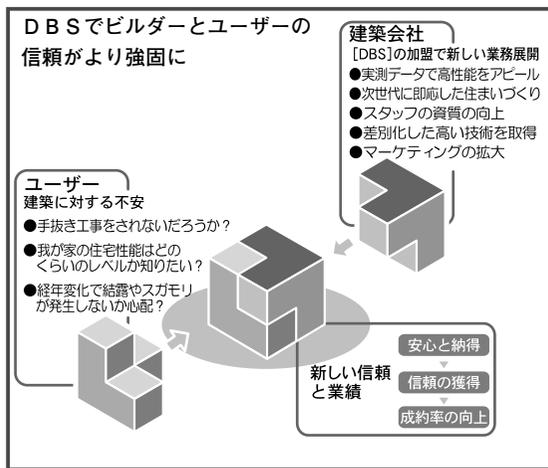
トダウン、トータル業務では性能表示制度に使用する申請書類作成なども行ってくれるので、様々なニーズに対応できるようになります。

★将来的にはさらにサービス拡大★

「DBS」ではビルダーとユーザーの間の領域まで入って、ビルダー単独では困難なサービスをユーザーに提供することにより、販売促進・受注拡大のお手伝いをするものです。現在は温熱環境に絞ったサービスを中心としていますが、将来的

にはさらに室内空気質の調査や地耐力・地質調査の実施も視野に入れ、より便利で役に立つ住宅づくりのネットワークへと発展させる考えです。

この厳しい時代を生き残っていく手段として「DBS」を積極的に利用し、他社との差別化やユーザーの信頼獲得などにつなげてみてはいかがでしょう。



注目!

入会時ボーナスポイント&サーモ熱観測キャンペーン実施中

現在、新規にDBS会員契約を結んだビルダーにボーナスポイントとして8万点をプレゼント。また、「サーモグラフィーご利用促進キャンペーン」として、来年3月31日まで通常価格・会員価格とも設定価格の半額でサーモグラフィー熱観測を利用できます。

「ビルダーさんへのお役立ち」がキーワード



野村室長

(株)ダンネツ市場開発推進室 野村秀二室長

この厳しい時代の中で、どのビルダーさんも生き残りをかけて一生懸命ですが、そういう時だからこそ「DBS」は利用する価値が高くなると思いますので、どんどん利用して頂いて、お互い企業として成長していければいいと考えています。利用については制約がほとんどない会員制なので、ぜひ気軽に利用してもらいたいですね。

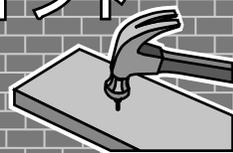
また、特に冬が本格的になるこれからの時期には、室内の暖かさに大きく関わる断熱施工の様子が見えるサーモグラフィー熱観測が一番のお勧め。興味があるビルダーさんはすぐにでも連絡してもらえれば対応しますので、どんどん販売促進につなげてほしいと思います。

「DBS」に関する問い合わせはこちらまで…TEL 011-893-3645

高断熱・高气密工法のチェックポイント

第14回

基礎断熱②



前回に引き続き、基礎断熱の基本事項について解説します。今回は施工時に最も注意しなくてはならない「基礎天端・土台間の気密化」と「床下空気質の維持」をしっかりとマスターしましょう。このほか、基礎断熱した床下空間の活用方法も紹介します。

Point.1 基礎天端・土台間を気密に

基礎断熱では、基礎天端と土台の間の気密化が住宅全体の気密性能を大きく左右します。特に基礎天端の仕上げには細心の注意が必要で、不陸は2mm以内に収めるようにします。基礎天端・土台間の気密化手法は、ア.気密材としてパッキン材を挟む、イ.現場発泡ウレタンを吹き付ける、ウ.防湿・気密シートを断熱材と基礎の間から立ち上げて基礎天端から室内側に折り込み、土台を乗せて壁の防湿・気密シートと連続させる、エ.ウの要領で防湿シートを立ち上げ土台を敷いてから室内側に折り返し、防湿・気密シートと連続させる—などがあります(図A)。

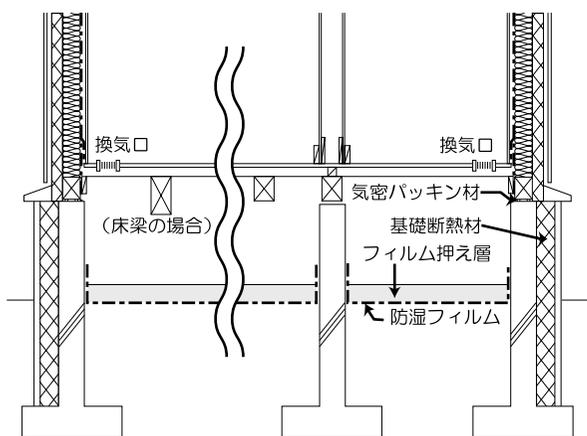
Point.2 健康的な床下環境を維持

基礎断熱では床下を室内空間に取り込む構造になり、床下換気口は設けないので、床下空間の空気質を衛生的に保てるよう配慮します。カビ・結露の原因となる余分な水蒸気や汚染空気が滞留しないよう、1階床面にスリットを設けたり(写真

1)、床下を換気経路に組み込むことで床下の空気の対流を図り、地盤面は押さえコンクリート等で防湿処理を行います。防腐処理された柱や土台を使った場合、健康に悪影響を及ぼす恐れがあるので、ヒバなど耐腐朽性・耐蟻性の高い材料を使うことが望ましいでしょう。また、布基礎に張った断熱材の上に施工する仕上げモルタルのクラックを防ぐには、市販されている割れ防止専用モルタルの使用がお勧めです。

Point.3 床下を賢く利用

1階床下空間を有効利用できるのも基礎断熱の大きなメリット。例えば、1階床下に暖房機を設置し床面から暖気を上げるようにすると(写真2)、少ないエネルギーで高い暖房効果が得られるうえ、室内も空間を最大限利用でき、電気蓄熱暖房の場合は、コンクリートの蓄熱性を生かすことでオーバーヒートの防止にも役立ちます。1階床下から新鮮外気を取り込み、空気の対流を利用して換気を行うパッシブ換気や地下室、収納庫なども考えられるでしょう。



図A・基礎天端と土台間の気密化

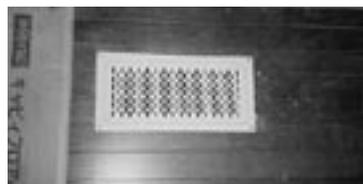


写真1・床下空間の空気を対流させるためのスリット



写真2・床下に暖房機を設置した例

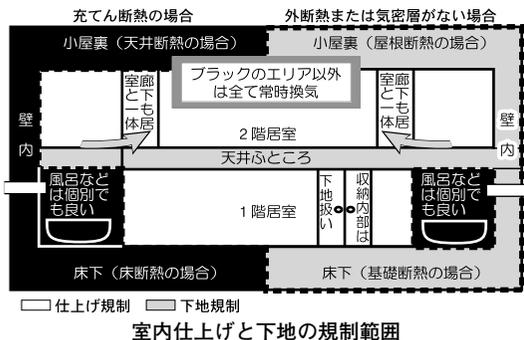


住宅業界ニュース&インフォメーション



シックハウス対策法二次案公表

国土交通省では7月末に公表した「シックハウス対策の技術的基準の試案」への意見を踏まえ、同試案の第二次案を発表した。第一次案と比べて大きく変更された部分はないが、天井高が高い場合の換気量緩和規定などが盛り込まれている。



それによると、クロルピリホスを使用禁止とし、ホルムアルデヒド対策として換気の義務化と建材の使用面積制限を行うのは第一次案と基本的に同じだが、換気回数は住宅の居室などが0.5回/時以上となったほか、天井高が3mを超える居室は、住宅の気積が大きくなり換気量が増えすぎることから、換気回数の基準を引き下げてもよいことになった。また、真壁造の在来木造工法で、旧来型の本製建具を使用するものなど開放的な建築構造の建物を除き、ホルムアルデヒドを発生する恐れ

がある建材などを使わないときでも、居室に換気設備を設置することとなった。

このほか、システムキッチンなどの箱もの建材は、扉など室内に面する部分は仕上げ規制の対象に、内部の天板などは下地規制の対象となるほか、全てのリフォーム工事も改正法の対象になることが明らかになっている。

太陽エネルギーに補助

(財)新エネルギー財団(NEF)では、太陽光発電システムや、太陽熱給湯・暖房など住宅用太陽熱高度利用システムの設置に対する補助金交付事業の下期受け付けを、現在行っている。

補助額は太陽光発電が出力1kW当たり10万円、太陽熱利用は一件につき最高15万円(条件によって金額は変動)。締め切りは来年1月31日(金)までだが、申し込みは先着順に受理される。詳しくは同財団(太陽光TEL 03-5275-3046、太陽熱TEL 03-5275-9566)へ。

◆編集後記◆

- ◆ 毎年雪がちらつき出すこの時期になると年賀状の準備を始めるのですが、どのようなデザインにするかなかなか決まりません。1年に1度のことなのですが毎年頭を悩ませています…。(佐野)
- ◆ 北海道の高い山の頂は、すっかり白くなってしまいました。これから寒さは一段と厳しくなっていきますが、そんな時だからこそ温泉に行って露天風呂で雪見酒とでもいきたいところでね。(水越)



株式会社タフネツ

ホームページURL <http://www.dan-netso.co.jp/>
E-mailアドレス info@dan-netso.co.jp

「快適な住まいづくり」はお任せ下さい!

- フローリング工事 ●気密・換気工事 ●防水工事
- ガラスウール工事 ●吹付・注入工事 ●パネル製造

■本	社	〒070-8045	旭川市忠和5条4丁目63-636	TEL(0166)61-9151	FAX(0166)61-2044
■旭川	工場	〒071-1248	上川郡鷹栖町29番62番363	TEL(0166)87-4442	FAX(0166)87-4888
■札幌	支店	〒004-0055	札幌市厚別区厚別中央5条2丁目4-10	TEL(011)893-3588	FAX(011)893-3502
■釧路	支店	〒088-0621	釧路区釧路町桂木5丁目15	TEL(0154)36-1790	FAX(0154)36-1844
■帯広	支店	〒080-2460	帯広市西20条北2丁目2-1	TEL(0155)41-4101	FAX(0155)41-4105
■旭川	支店	〒070-8045	旭川市忠和5条4丁目63-636	TEL(0166)62-7575	FAX(0166)61-1715
■北見	支店	〒099-0878	北見市東相内町174番地16	TEL(0157)36-3557	FAX(0157)36-3433
■千歳営業	所	〒066-0008	千歳市根志越2190-27	TEL(0123)26-4111	FAX(0123)26-4112
■千葉	支店	〒262-0064	千葉県千葉市花見川区三角町16	TEL(043)258-4065	FAX(043)258-4025
■大宮	支店	〒331-0064	埼玉県さいたま市大字佐知川字粕田159	TEL(048)624-9493	FAX(048)624-1857
■宇都宮	支店	〒321-0923	栃木県宇都宮市平松本町362-6	TEL(028)636-1266	FAX(028)636-2675
■高崎	支店	〒370-3523	群馬県群馬郡群馬町福島644	TEL(027)373-7199	FAX(027)373-5583
■平塚	支店	〒254-0017	神奈川県平塚市真土24-1	TEL(0463)54-6484	FAX(0463)54-2430
■水戸営業	所	〒311-3116	茨城県東茨城郡茨城町長岡3660-15	TEL(029)291-1822	FAX(029)291-1825
■株ダンネツ信州	〒399-0033	長野県松本市大字世賀5130-1	TEL(0263)26-0811	FAX(0263)26-1016	
■株ダンネツレーディング札幌支店	〒004-0022	札幌市厚別区厚別南1丁目8-28	ラクヒルズわたなべ1F	TEL(011)801-6811	FAX(011)801-6822